

# 令和4年度第1回 香川県立図書館協議会

日 時：令和4年7月22日（金） 13:30～15:00

場 所：香川県立図書館 研修室

出席者：石野委員、梅澤委員、岡委員、香川委員、清國委員、  
森山委員

欠席者：池田委員、川根委員、黒川委員、山本委員

傍聴者：なし

1. 開会
2. 館長挨拶
3. 議題

## (1) 令和3年度運営状況について

- ・事務局より令和3年度運営状況について説明
- ・承認
- ・質疑、下記のとおり

委 員：参考調査では、例えばどのような問合せが寄せられるのか。

事務局：こんな本を探してほしいと相談された時には、紹介を求められた分野の本を幅広く調査し、関連する本を提供している。

委 員：事実調査とはどういったものか。

事務局：例えば、2年前の香川県の人口は何人かというような、事実に関する調査のことである。

委 員：問い合わせ件数が多いのは、些細な相談もあるのかもしれないが、それだけ頼りにされていることの裏返しではある。

それと、私自身も時々県立図書館を利用するが、いつも閲覧席が満席で、椅子に座ってじっくり調べようと思っても、なかなか席が空かない。時間制限はないのか。

事務局：当館の閲覧席は机のある席とスツールの腰掛タイプの席を合わせて285席で、コロナ前と比べると間隔確保のため席数が幾分少なくなっている。席の利用に時間制限は設けていないが、土・日・祝日及び夏季期間は社会人席を設けて、児童生徒の方の利用はご遠慮いただくなど、混雑防止に努めている。

委 員：たくさん調べようと意気込んで来館したのに、全く座れなくて非常に残念な思いをしたことが何回かあった。要望に基づき将来的に閲覧席を拡充する計画は

あるのか。

事務局 : 児童生徒の親御さんから、もっと自習スペースを確保してほしいという要望はあるが、閲覧席は、基本的に図書館の資料をご利用いただくためのものであり、なかなか難しいとお答えしている。

委員 : 利用者登録者数の22万人という数字が、香川県の人口96,7万人に対しどのようなものか。つまり他県においても人口に対する登録者数の比率は同程度なのか、香川県の県域が狭いので、高いといった分析結果があれば教えてほしい。

もう一点は新規登録数のうち、親子の世代の割合が高いことがデータからわかるが、それは新型コロナウイルスによる外出の制限によって、どこかに出かけるということができずに図書館に集まったのか、あるいは何らか別の要因があってその世代が図書館に来るようになったのか、そうした分析を行っているのか。

事務局 : 利用者登録者数は、令和2年度末時点で21万7367人であり、全国で4番目である。

委員 : それは人口比で見たときにか。

事務局 : 利用者登録者数で見ると4番目ということである。1位が宮城県、2位が岡山県、3位が大分県で、全国平均は約10万4,000人余りである。

委員 : 香川県は多いということで、意外な感じがした。

事務局 : 詳細な分析はできていないが、新規登録者の住んでいるエリアを確認してみたところ、県立図書館の周辺にあたる木太町、林町、多肥上・下町、出作町、太田上・下町などの児童及びその親世代の登録が多い。この辺りは戸建て住宅向けの分譲地などの開発がここ数年進んでおり、そういった人たちが近くの図書館という認識で登録・利用されているのではないかと感じている。

委員 : この周辺の小学校では校舎が足りないということも聞くし、それは納得できる理由だと思う。

事務局 : ちなみに多肥小学校は高松市内で児童数が最も多い。

委員 : 県立図書館から案内を送付いただいている講座やイベントの記録写真を見ると大勢参加していて、関心の高さがうかがえる。

委員 : 先ほどの説明の中の、テーマに添った探し方のガイド、調べ方ガイドの作成・配布は、いい取り組みだと思う。これは図書館がやるべきかどうか分からないが、高等学校では、今年度から探究が必修になったので、先生に対してそうしたツールを案内すれば、先生が生徒に調べ方ガイドを用いた図書館の活用方法を探究学習指導の際、教えることができると思う。そのためには、教育委員会、高校教育課と連携があった方がいいのではないと思う。高校生に対しても、図書館での学習は推奨すべきであり、図書館の資料を用いた深い学びが望まれる。高校への働きかけは検討可能だろうか。

また、メールによるレファレンスの問い合わせが増えたということだが、今後、

新たなオンラインでのサービスを検討しているのか。例えば、アマゾンなどのネットショップのように、この本を検索した人は、これらの本も検索していると案内するのも、一つのサービスかもしれない。検討は進めているが、予算的制約により実施が難しいものも含めて教えていただきたい。

事務局 : オンラインでのサービス等は、令和5年の図書館情報システム更新に合わせ、予算との相談にはなるが、この5, 6年の急速な変化に鑑みて、出来るだけ少しでも進歩したサービスをとり入れようと今検討しているところである。

探し方のガイド、調べ方ガイドについては次にどのようなものを作ろうかと頭を悩ませていたところであり、探究学習に向けてのガイドのご提案は大変参考になるものであり、どのように生徒にアプローチするのか、義務教育課とか高校教育課等の先生に教えていただきながら、今後一つでも作れればと思う。

委員 : 是非お願いしたいのは、どこかへ出向きインタビューしたらそれで探究学習になったとしてしまいがちなので、丁寧に資料に当たることが、探究学習には不可欠だと伝えてもらいたい。そうした資料を調べるという習慣を身につけることはきっと将来役に立つ。そうした観点から、可能ならば高校などと連携していただきながら探し方ガイド・調べ方ガイドを作成していただければよいと思った。

委員 : 図書館ではInstagramを活用しているのか。

事務局 : 今のところ独自にアカウントを取得していない。

委員 : たくさんの人に図書館の活動をPRする手段としてInstagramを活用してはどうか。例えば最近では神社であってもInstagramに様々な行事を投稿する時代だ。

また、私が所属するかがわ産業支援財団の入居する香川産業頭脳化センタービル内の1階には掲示板があるので、そこに図書館のコーナーを設けて展示や掲示をすれば、郵便局や銀行の利用客の目に触れると思うので提案させていただく。

## (2) 令和3年度図書館評価について

- ・令和3年度図書館評価について説明
- ・承認
- ・質疑、下記のとおり

委員 : 私はこれまで数年にわたって外部評価をさせていただいたが、自己評価が著しく低くなるのは、目標の設定が妥当ではないからだと考えている。令和3年度はコロナ禍という状況を踏まえた現実的な数値目標を設定し、それに迫るよう図書館として努力した結果、大部分において評価Aを得たものだと受け止めている。

- 委員 : コロナ禍にあっても地道な努力が続けられている。県内公共図書館が連携した「つながる図書館」といった新しい企画などは、A、Bの評価以上に内容が優れているので、今後も一步一步着実に取組みを進めてもらいたい。
- 委員 : B評価があるものの、それはAに近いBであり、努力の成果が表れていると思う。  
ところで、県立図書館では、例えば芥川賞や直木賞といった受賞作を何冊購入するのか。
- 事務局 : 郷土資料は複数収集するが一般書は基本的に1冊のみである。ただ人気の本は予約状況に応じて買い増しする。
- 事務局 : まず1冊購入し、予約数が60人に達した段階で2冊目を、90人に達したら3冊目を購入するが、それ以上は購入しない。
- 委員 : 私が勤務する公民館では僅かな図書費ではあるが、芥川賞などの受賞作が出版されたら購入している。6、7年前に立派な町立図書館が出来たが、そこではおそらく1冊しか購入しないためか、借りるのにかなりの順番待ちが生じるため、順番待ちの少ない公民館に借りに来てくれる。
- 委員 : 評価については申し分ないものの、来館者数、新規登録者数、ホームページアクセス数、個人貸出冊数などを増やすためには、現在来館されていない方や、ホームページにアクセスしていない方にどのようにアプローチするかを考える必要があるのではないか。例えば、チラシに記載したQRコードからメールアドレスを登録してもらい、こちらから適切なタイミングでイベント情報をそのメールアドレスに送信すれば、「ちょっと明日参加してみようか」というふうになるのではないか。オンラインのサービス、SNSの活用も考えてもらいたい。
- 委員 : 小・中・高校においてタブレットを使って授業を進めるなど、時代は確実に変わっている。そうした新しい時代に相応しい取組みも検討していただきたい。  
さて、アンケートの来館者満足度についてはこれまで90%に届かないところで推移しており、さらに数字を追うのは限界に達しているのではないかと思う。最近、民間のマーケットリサーチにおいて、利用者や商品購入者、イベント参加者を対象にしたアンケートでは、「あなたはこれを誰かに薦めたいと思うか」との質問をして、0から10までの11段階を選ばせる。0から6までは批判的、7、8は比較的好意的、9、10が本当に人に薦めたいと思う人で、満足度が高い人は9か10であると判定するアンケートが採用されている。そういう問いを公表する、しないは別として、アンケートに採り入れて、本当に身近な人に薦めたいと思うぐらい満足しているのかという測定を2、3年続けることで、本当の利用者満足度が見えてくるかもしれない。  
令和3年度は、コロナ禍という状況を反映した数値目標の設定にならざるを得なかったが、コロナ後を見据えて、県立図書館の役割を具体的に表す基本方

針・重点目標の再定義とそれに関連付けた評価指標及び数値目標の見直しが求められるだろう。その際には、これまで蓄積されたデータを検証するとともに、他館における図書館評価の状況を把握するなどの必要もあるだろう。

また、現在国際情勢が非常に緊迫しており、エネルギーなど我々の生活に直結する問題や課題が生じている。ロシアとウクライナの問題を正面から取り上げるというのは今の段階では難しいと思うので、エネルギーとか持続可能な開発目標というテーマで図書館から早い段階で何か発信していただきたい。

委員：某市中央図書館では、戦争に加え、ウクライナに関する本やロシアの絵本を展示する「戦争を知ろう」というコーナーを設けた。また、SDGs 関連本の展示を昨年度開催したが、利用者の関心が高く、かなりの貸出しがあったので、こうしたテーマでの展示をお薦めしたい。

委員：某市中央図書館では既に実施したということなのか。

委員：新聞社から展示実施の有無についての取材があり、その時点では計画はなかったものの、利用者からも問合せが出はじめたので、利用者の関心に応じる必要性を感じコーナーを設けるなどした。

委員：マスメディアからの問合せも、コーナー設置や展示実施の動機づけになる場合がある。

委員：評価を見ると全体を通して非常に優秀な図書館であるということがよくわかる。ちなみにホームページアクセス数が 352,351 件とあるが、これを例えば岡山県立図書館などの他館との比較を行っているのか。

事務局：アクセス数の経年の変化や、PC版、スマホ版、携帯版といったサイト別のアクセス数の分析のみであるので、他館との比較も検討していきたい。

委員：ホームページのアクセス数は県立図書館に対する関心の高さを判断できる要素である。そのような観点から、他館のホームページの内容を把握するなどし、内容の充実を図り、ホームページの情報発信機能を高めるべきと考える。

いずれにしても、運営状況を総括した結果に基づいて今後の取り組みを明確にしており、全体的には非常に優秀な図書館であり、全く持って問題ないと思う。

事務局：委員さんが言われていることについて、パワーポイントの資料に日本図書館協会が全国のデータを集めてランキングを出しているのですが、ご指摘の件については全国のランキングを記載している。

図書館の入館者数を見ると、概ね10位前後で推移しており、個人貸出冊数については人口千人当たりであれば一昨年度は全国1位であった。

インターネット検索件数では全国的な統計をとりまとめていない。平成26年度にデジタルライブラリーということで、郷土資料をデジタル化してホームページにアップしているというところから検索件数が上がってきており、平成28年度がピークになっているが、昨年度、また今年度も新たにデジタル化した

郷土資料を追加していくので、件数が上がっていくと考えられる。

委員：数字が上がってきている。関心度が高いからか。

委員：香川県立図書館だけを見ているよりは他との数値と相対的に見た方がよく分かる。当館の位置というのが全国レベルでどこに当たるかというところがもし一覧のような形でまとめられているということであれば、また次回にでもご紹介いただきたい。

#### 4. 閉会